

45 Anniversary

JOICFP ANNUAL REPORT 2013

ジョイセフ年次報告書 2013

2013年度(2013年4月~2014年3月)



ジョイセフ
JOICFP

途上国の妊産婦と女性を守る

2013年度を振り返って： 妊産婦と女性の健康と命を守るために

ジョイセフ設立45周年：日本生まれのNGOとしての使命を担う

2013年4月22日にジョイセフは設立45周年を迎えました。

ジョイセフ設立当時(1968年)の日本は戦後から20余年。高度経済成長期の最中で、すでにGNP(国民総生産)が世界第2位となった頃でした。

ジョイセフは、当時警鐘が鳴らされていた急増するアジアの人口問題に対して貢献する使命をもって日本生まれのNGOとして誕生しました。ジョイセフは日本の戦後の家族計画・母子保健の経験を活かした、一人ひとりのニーズに合わせたマイクロからのアプローチをとる技術協力事業を実施することを開始しました。

ジョイセフは、それ以来、妊産婦や女性の健康の改善のために、地道な活動を継続する中で、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(RH/R)分野*の経験と実績を今日まで積み上げてきました。今後もその使命を全力で果たしていきます。

アフリカ開発会議(TICAD V)：アフリカの妊産婦と女性のために

妊産婦の健康改善に関する取り組みはジョイセフにとって中心的課題です。依然として改善できていない国々が、サハラ以南のアフリカや南アジアなどの開発途上国に多いことも明らかです。世界では、毎日約800人、毎年28万9000人の女性が妊娠や出産が原因で命を落としているという現実が私たちに突きつけられています。

6月には第5回アフリカ開発会議(TICAD V)が横浜で開催されました。ジョイセフは、福田康夫元首相、エレン・サーリーフ(リベリア)大統領、ジョイス・バンダ(マラウイ)大統領などを迎えて、妊産婦の命を守るための公式サイドイベントを、国際家族計画連盟(IPPF)や国連人口基金(UNFPA)、外務省などの関係機関と共に開催し、「未来の大陸」アフリカの開発や女性の健康について話し合いました。

被災者支援(東北支援・フィリピン支援)

2011年3月11日に発生した東日本大震災から満3年が経過しました。被災された妊産婦、女性および新生児への支援を、ジョイセフは続けてまいりました。

本年度は地域の開業助産師の方々と、「心のケア」を中心した支援事業と、リフレッシュ・ママクラス、MOM meets MOM in Tohokuやジョイセフ・カレッジTOHOKUを通して被災地域のニーズに合わせた女性のエンパワーメントを目指した講座も開催しました。

また、2013年11月8日のフィリピンの台風30号「ハイエン」の被災者、特にレイテ州、サマル州などの被災女性、妊産婦への支援を現地フィリピン家族計画協会(IPPFフィリピン)とともに引き続き展開しています。

高齢化社会のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(RH/R)を考える

IPPFでは、高齢化社会における加盟協会(MA)の役割を確認し、その準備のために、まずは「高齢社会」のフロント・ランナーとしての日本の経験や教訓から学ぶことを開始しました。前年度の平成25年3月に第1回目のワークショップを東京で開催し、本年度の12月に第2回目のワークショップを開催。日本の経験や好事例の学習を踏まえて、具体的な高齢化社会に臨む戦略構築を行うことを目指しました。IPPF加盟協会(MA)の東・東南アジア・大洋州地域(ESEAOR)の5カ国・地域(中国、香港、インドネシア、マレーシア、タイ)の各MAの理事、事務局長、シニアオフィサー等が参加しました。

日本の高齢化事業の画期的な取り組みを行っている静岡県および藤枝市から多くの好事例を学ぶことができました。ジョイセフは「ライフサイクル」における健康支援およびリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(RH/R)を重視しています。これらのニーズに基づくMAの将来的な役割の議論を深め、高齢化社会に挑むMAの戦略づくりを行いました。生涯にわたる健康の視点からの高齢化社会への取り組みが、開発途上国でもすでに重要な課題となってきました。

ODAの現状と日本の更なるリーダーシップを

国際協力の指標ともなるODA(政府開発援助)を概観してみると、実は1997年以来16年もの間下降線をたどってきています。人口活動分野においては、IPPFとUNFPAへの最大の抛出国であった日本の存在感が残念ながら低迷していると言わざるを得ません。両機関に対する日本の抛出国額は、それぞれ最大時(1997年)から半減しています。国際社会で世界の人口問題やリプロダクティブ・ヘルス/ライツの推進に重要な責任や役割を果たしてきた日本の存在感が薄れているのは残念でなりません。今こそ、母子保健大国と評される日本の国際協力分野での力強いリーダーシップが国際社会から期待されています。

一人ひとりの視点に立って

ジョイセフは、一人ひとりの視点に立って、2013年度も開発途上国(アフガニスタン、ガーナ、ザンビア、タンザニア、ミャンマーなど)への外務省やJICAの委託を受けた技術協力事業をはじめ、多くの支援者の方々のご寄附をもとに開発途上国への支援を実施しました。人材養成事業では20カ国以上の受け入れを実施しました。地域に根差した活動を通して、一人ひとりの住民に届く支援を目指しています。

また、本年度の国内活動で特記すべきことは、以下の通りです。

- ・MODE for Charity、初めて大阪で開催
- ・ジョイセフフレンズ活動の全国展開(毎月11日を「ジョイセフフレンズの日」に決定)
- ・ホワイトリボン運動への企業参加の拡大(マタニティハウスの建設などへの協力支援)
- ・ジャパン・プラットフォームへの加盟(緊急支援の強化)
- ・チャリティーピンキーリングによる支援の拡大
- ・45周年記念特別講座の開催

今後とも私どもジョイセフの活動へのご理解とご支援のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人ジョイセフ
常務理事・事務局長

鈴木良一



*リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(RH/R): 人間の生殖システム、その機能と過程の全ての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを指しています。人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力をもち、子どもを産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由を持つことを意味します。そのための情報と手段を得ることができ、差別、強要、暴力なしに、生殖について決定することが含まれます。



TICAD V公式サイドイベントを共催

2013年6月にパシフィコ横浜を会場に第5回アフリカ開発会議(TICAD V)が開催され、ジョイセフは公式サイドイベントとして外務省、国連人口基金(UNFPA)、国際家族計画連盟(IPPF)など5団体とともに、シンポジウム「妊産婦の健康に対する投資の効果」を共

催しました。アフリカの妊産婦の現状を報告し、日本をはじめ先進国による投資の効果とさらなる投資がいかに重要かを、福田康夫元首相、エレン・サーリーフ大統領(リベリア)、ジョイス・バンダ大統領(マラウイ)など7人が訴えました。

フィリピン台風ハイエン被災地支援

2013年11月8日、フィリピンを台風30号(ハイエン)が襲い、未曾有の被害をもたらしました。ジョイセフは、ジョイセフの現地パートナーであるフィリピン家族計画協会(IPPFフィリピン)に状況を確認後、日本国内において被災妊産婦・女性への支援を呼びかけました。寄せら

れた支援は、妊産婦や授乳中の女性を対象とした医療活動の実施や衛生キットの配付に役立てられました。災害約50日後にして初めて妊産婦健診を受けられた女性たちは安堵の表情を見せていました。2014年3月31日現在までに7000人以上の女性に支援を提供しました。



ミャンマー JICA 草の根技術協力事業が始動

2014年2月1日より、新たなJICA草の根技術協力事業が、ミャンマー連邦共和国エヤワディ管区のチャウンゴン・タウンシップで始まりました。プロジェクト地区における妊産婦死亡の低減を上位目標に、妊娠中の女性たちの健康改善のため

のコミュニティづくりを目指す事業です。2014年3月31日までに、保健省保健局との全体計画の策定、プロジェクト地区の保健スタッフや住民を対象としたオリエンテーションなどを実施しました。

アフガニスタンの子どもたちに届ける 「思い出のランドセルギフト」活動10周年

株式会社クラレと連携して、2004年からスタートしたアフガニスタンにランドセルを贈る活動が、10周年を迎えました。女子教育の強化支援の一環として実施しているこの活動は、これまでに12万人以上のアフガニスタンの子どもたちにランドセルと学用品を贈りました。10年間にわたり活動が継続できているのは多くの企業、団体、個人の支援者の皆さまのご理解とご協力の賜物です。



毎月11日を「フレンズの日」に決定

ジョイセフのマンスリーサポート(毎月定額寄附)システム「ジョイセフフレンズ」の活動4周年を記念し、2013年11月11日に、毎月11日を、海の向こうのフレンズに思いをはせる日として「フレンズの日」と決定しました。11日という日は、3・11東日本大震災、9・11世界同時多発テロというような世界で様々な出来事が起こった日です。また7月11日は世界人口デー、10月11日は国際ガールズデーとジョイセフにとって関連の深い大切な日となりました。

関西で初のMODE for Charity 開催

ジョイセフフレンズの期待の声に応え、12月に、「MODE for Charity 2013～すべてはママとベビーの笑顔のために」をグランフロント大阪内うめきたSHIPホールで開催しました。ノラ・ムラットIPPF東・東南アジア・大洋州地域事務局長が来日し、モデルの堂珍敦子さんと、産婦人科医の宋美玄先生とともにトークショーを実施しました。シンガーソングライターUAさんの

トーク&ライブ他、ファザリングジャパンの安藤哲也さんとFM802人気パーソナリティ大抜卓人さんのパパ対談も。関西にゆかりのある豪華メンバーが登場。イベント収益は、フィリピン台風30号による被災女性・妊産婦支援を新たに加え、東北の女性支援活動とアフリカの妊産婦支援活動の3事業に役立てました。



東北女性支援2013

復興格差が問題となった2013年、ジョイセフは「女性同士がつながる&支え合う」をテーマに取り組みました。たとえば「MOM meets MOM in Tohoku」では、10年前津波により壊滅的被害を受けながらそれを乗り越えてきたインドネシア・アチェのママと東北のママがメッセージを交換。「ジョイセフ・カレッジTOHOKU」では、各界で活躍中の女性リーダーと東北の女性と一緒に新しい東北のかたちを考えることによって、未来へ踏み出すアイデアと踏み出すチカラが生まれました。

WHY

なぜジョイセフは活動するのか



世界では
毎日およそ800人の女性が
妊娠や出産が原因で
命を落としています。
そのうち99%が
開発途上国に住む女性たちです。

開発途上国ではとりわけ女性は男性中心の社会の中で、
厳しい状況におかれています。
例えば、女性は妊娠や出産について自分で決められないことが多く、
望まない妊娠や立て続けの出産が
女性たちの身体に大きな負担となっています。

保健や医療に関する正しい知識と情報を得る機会が十分でなく、
保健システムがいまだに整備されていないため、
適切な医療ケアを受けることができない、
地域での必要な支援が届いていないなどの現状があります。

この背景にある問題のほとんどが予防可能で、
早期発見により対応が可能と言われています。



国際的な目標でもある、「世界中の女性たちが望まない妊娠
をすることなく、いつ、何人産むか、産まないかを自ら選択し、
安全に子どもを産み、安心して育てられる社会の実現」。
これは、女性の命や健康に関する問題に限らず、ゆくゆくは家
族、地域、社会開発にもつながるとジョイセフは考え、活動し
ています。

1年間に、約2億1000万人の女性が妊娠しています。
そのうち望まない妊娠は約8000万です。
1日に200人以上の女性が安全でない人工妊娠中絶で命を落としています。
開発途上国では毎日2万人に上る18歳未満の少女が出産しています。
また、15歳未満の妊産婦の死亡のリスクは、それ以上の年齢の女性の2倍です。

出典：世界女の子白書/世界人口白書2013

HOW

ジョイセフの活動～基本アプローチ

途上国の妊産婦が命を落とす主要な要因として、次の「3つの遅れ」があると言われています。

これらの改善に向け、ジョイセフは「予防」と「医療ケア」を地域レベルで結ぶことが必要と考えています。

地域住民が「自分の健康を自分で守る」ための意識をもち、住民主体の健康づくりを進めるとともに、保健医療サービスへのアクセスの改善とサービスの質の向上に向けて活動しています。



1. 決断の遅れの改善に向けて

住民の健康に関する正しい情報や知識を提供し、一人ひとりが適切に判断する力をつけるため、また、男性の参加を促進し、判断が遅れないよう、女性を取りまく支援的な環境づくりを図っています。コミュニティ・ヘルス・ワーカー（保健ボランティア）の育成、地域組織の強化、効果的な広報・教育メディアの開発や啓発活動等を通して実施しています。

2. 搬送・アクセスの遅れの改善に向けて

遠い診療所を少しでも近くするため、ジョイセフはマタニティハウス（出産待機所）の建設、健診を受けやすくするための出張診療、また、コミュニティ・ヘルス・ワーカーの協力を得て、お産に向けた準備や緊急時の搬送（交通手段）等を女性が夫や家族とともに搬送のための交通費の貯蓄や支援の確保を準備することによって改善を図っています。

3. 医療ケアの遅れの改善に向けて

病院や診療所で「親切で質の良いリプロダクティブ・ヘルスサービス」が提供できるよう、保健医療従事者の能力強化および施設の改善を図る活動を展開しています。また、保健施設の運営やマネジメント、地域診療所の搬送態勢の整備などを行い、医療ケアの遅れに対応する活動をしています。

「つなぐ」役割をもつジョイセフ

日本生まれの民間の国際協力NGOジョイセフは、国際機関や政府、市民社会や企業、そして途上国のNGOと連携しながら女性・妊産婦の健康改善に向けた環境づくりを目指しています。

ジョイセフのもつ大きな役割は「つなぐ」こと。地域にある潜在的な能力および可能性を引き出すため、また、途上国と国際社会および日本をつなぐために「触媒（Catalyst）」としての役割を果たしています。

途上国で「つなぐ」

- 住民一人ひとりをつなぐ
- 住民と保健サービス提供者をつなぐ
- 住民と行政組織をつなぐ
- 住民の声を政策決定者につなぐ
- 保健セクターと他分野のセクターをつなぐ
- 官（行政）・学（学界）・民（民間組織）をつなぐ

開発途上国と国際社会および日本を「つなぐ」

- 現場のニーズと国際保健政策・ODAをつなぐ
- 政策提言に向けて国内外のNGOをつなぐ
- 支援者と支援者をつなぐ
- 企業・団体、自治体、メディア、有識者、オピニオンリーダー、市民と途上国、被災者をつなぐ
- 国と国をつなぐ（南南協力など）



ガーナ

REPUBLIC OF GHANA

イースタン州コウ・イースト郡ヴォルタ川地区 リプロダクティブ・ヘルス向上プロジェクト

目的	安全な妊娠・出産に焦点を当てた、質のよいリプロダクティブ・ヘルス(RH)サービスの提供と、住民に対する草の根の啓発活動による対象地域の妊産婦の健康の改善
実施地域	イースタン州コウ・イースト郡ヴォルタ川地区
対象人口	約8万人
実施期間	2011年11月～2014年12月
現地協力団体	ガーナ家族計画協会(IPPFガーナ) ガーナ国家保健サービス<外務省日本NGO連携無償資金協力事業>

2012年に建設されたリプロダクティブ・ヘルス(RH)センターに助産師が常駐し、施設分娩や産前・産後健診などのRHサービスの提供を本格的に開始。これにより、対象地域に暮らす女性にとって、RHサービスがより身近で利用しやすくなりました。さらに2013年には、遠隔の3つの村に建設した診療所に政府から保健スタッフが配属され住民の保健サービスへのアクセスは一層改善されました。RHセンターとの連携、緊急時の搬送態勢も整いつつあります。



▲ CHPS*診療所開所式(2013年11月)、州保健局長による挨拶、地域代表および日本大使館をはじめ、関係機関代表、住民も数多く参加

*CHPS:地域保健師による基礎的保健医療サービス



01



02



03

01.コトソRHセンターで出産した母子 02.草の根での啓発活動展開に向けて地方歌劇団に対し青空演劇(コミュニティドラマ)を指導する日本人専門家 03.ヴォルタ川流域での巡回診療や緊急搬送のためのボートを配置 04.CHPS診療所開所式で地域から選ばれて、養成された保健ボランティアを住民に紹介。プロジェクトのロゴマーク入りお揃いのTシャツを着て挨拶 05.プロジェクトのロゴマーク:コトソ近隣の小学校児童が描いた太陽と母親の笑顔をモチーフにしたデザイン



SOGI SOGI SUNSHINE

05



04

ガーナ国HIV母子感染予防にかかる 運営能力強化プロジェクト

目的	保健スタッフおよびその監督指導者の能力強化と補助教材の制作・活用を通じたHIVの母子感染予防(PMTCT)サービスの提供体制の強化
実施地域	グレーター・アクラ州
対象人口	約14万人(妊産婦と乳幼児)
実施期間	2012年2月～2015年3月
現地協力団体	国家エイズ性感染症対策プログラム(NACP:National AIDS/STIs Control Programme) グレーター・アクラ州保健局(Greater Accra Regional Health Directorate) ＜国際協力機構(JICA)技術協力プロジェクト・公益財団法人結核予防会との共同実施＞

2012年度企画された啓発教材として、保健施設の待合室で活用できるビデオドラマと本、カウンセラーから母親へメッセージを添えられるカードが完成しました。また、PMTCTサービス実施ハンドブック1000部が印刷され、現在州内の全PMTCT施設(162カ所)で活用されました。119名の保健スタッフがPMTCTカウンセラー養成研修に参加し、修了試験では全員が90点以上の合格点を取得。州および全郡の監督指導者と郡保健局職員約40-45名が計3回開催した支援型監督指導能力強化研修各回に参加しました。監督指導チェックリストを250冊作成し、州・郡の監督指導者全員に配付、現場で広く活用されました。

01. PMTCTサービス実施ハンドブックの印刷用デザイン・レイアウトを確認するガーナ政府側担当者とジョイセフスタッフ **02.** 修了試験を受けるPMTCTカウンセラー養成研修者たち
03. PMTCTサービス実施ハンドブックを制作するタスクフォースチーム会合の様子 **04.** 啓発教材ビデオドラマの撮影現場。ジョイセフから派遣された専門家から現地関係機関・NGOの混成クルーに対して技術移転を行いながらの撮影



EMBRACE(コミュニティと施設の連携促進および産前から乳幼児までの継続ケア) 実施研究

目的	日本政府「国際保健政策2011-2015」に提示された「EMBRACE(母子継続ケア:Ensure Mothers and Babies' Regular Access to Care)モデル」を具現化し、母子継続ケアを達成するための有効な対策の特定およびその科学的根拠(エビデンス)の構築
実施地域	アクラおよびブロン・アハフォ州、グレーター・アクラ州、アッパー・イースト州の3カ所のヘルス・リサーチ・センター対象地域
実施期間	2012年6月～2016年3月
現地協力団体	EMBRACE合同研究チーム:日本側研究者(東京大学等)およびガーナ側研究者(ガーナ国家保健サービス(GHS)および傘下のヘルス・リサーチ・センター3カ所) ＜国際協力機構(JICA)業務委託・システム科学コンサルタンツ株式会社との共同実施＞

3カ所のヘルス・リサーチ・センターにおいて「母子継続ケア現状分析調査」を実施し、研究チームによる主介入の決定、介入を実施するための研究デザインおよび詳細活動計画策定に対し、支援を行いました。

タンザニア

UNITED REPUBLIC OF TANZANIA

リプロダクティブヘルス(RH)サービスの強化プロジェクト

目的	対象地域の女性にとって質の高いリプロダクティブ・ヘルス(RH)サービスの強化
実施地域	シニャンガ州シニャンガ県 シニャンガ州キシャブ県
対象人口	約10万人
実施期間	2011年4月～2015年3月
現地協力団体	タンザニア家族計画協会(IPPFタンザニア) <JICA草の根技術協力事業、寄附金>

2013年、保健スタッフに技能研修や接遇の改善のための研修を実施し、コミュニティ・ヘルス・ワーカー(CBSP)に再研修を行いました。効果的な保健教育セッションのための再研修では、より多くの住民に女性の健康に関する知識を伝え、診療所ではより質の高いRHサービスが提供できるようにしました。また、医療施設の改善策として、ホマンゴ診療所の母子保健棟を改善し、広く、明るく、使い勝手のよい健診・出産施設が新たに誕生しました。さらに、若者の望まない妊娠やHIV/AIDSの問題が深刻なキシャブ県においては、若者たちに正しい性の知識を伝えるためのピア・エデュケーター(仲間教育者)を育成し、啓発活動が行われました。

01.保健施設を訪れた妊産婦たちに信頼される質の良いサービスについて意見を交換する保健スタッフ(クライアント・フレンドリー・サービス研修) **02.**村レベルネットワーク強化会合にて、村ごとにアクションプランを検討している村レベルプロジェクト運営委員会メンバー **03.**改修が終わり完成したホマンゴ診療所



01



02



03

+ コミュニティ・ヘルス・ワーカー(CBSP)の育成



04



05

04.広報教育コミュニケーション研修に参加したコミュニティ・ヘルス・ワーカー(CBSP)(88名に実施) **05.**村の中で「妊産婦の健康」について楽しく学び、伝えるための教材ツールとなる「すごろくゲーム」をCBSPが自ら考えて作りました(広報教育コミュニケーション研修)

ザンビア

REPUBLIC OF ZAMBIA

妊産婦支援プロジェクト

目的	ザンビア農村地域のプロジェクト地区において、保健施設で介助が受けられる出産を増加させ、より安全な妊娠や出産を推進
実施地域	コッパーベルト州マサイティ郡フィワレ地区
対象人口	約1万7000人
実施期間	2011年1月～2013年12月
現地協力団体	ザンビア家族計画協会(IPPFザンビア)

プロジェクト最終年である2013年には、ザンビアの最も大きな課題である保健施設までの時間を縮めるために、マタニティハウス第2号をプロジェクト地区のムコルウェ村に建設しました。これにより、ムコルウェ村の妊婦さんは、出産予定日の2週間前からマタニティハウスに滞在して、訓練を受けた医療従事者のもとで安心して出産ができます。また、145名のコミュニティ・ヘルス・ワーカー(SMAG)を対象に行動変容のためのコミュニケーション教材を活用した研修を開催しました。マタニティハウス第1号が2011年8月に開所してから、2013年12月末までに648名の妊婦さんが利用し、保健施設での出産は2010年の290件から2013年の398件に増加しました。

このプロジェクトはCath Kidston、株式会社ファーストリテイリング(ユニクロ)、公益財団法人JKA、その他企業・団体・個人の皆さまからの寄附金により実施しました。

コミュニティ・ヘルス・ワーカー(SMAG)の育成



05



06



07

05. 広報教育コミュニケーション研修に参加したSMAGメンバー 06. 妊娠中のケアや健診を勧めるため、自転車に乗って家庭訪問をするSMAGのメンバー 07. マギーエプロン(RH視聴覚教材)を活用し、妊娠の仕組みや産前ケアの重要性を説明するSMAGメンバー

01. 建築士の遠藤幹子さんが講師になり、マタニティハウスの設計ワークショップを開催 02. SMAGのメンバーとベインディングワークショップを開催 <企画・デザイン協力 遠藤幹子> 03. 外務省の根・人間の安全保障無償資金協力のもと母子保健センターを改修、増築 04. マタニティハウスに滞在する妊婦さんたち



01



02



03



04

アフガニスタン

ISLAMIC REPUBLIC OF AFGHANISTAN

妊産婦と女性を守る 保健推進プロジェクト

目的	母子保健に関する情報とサービスをより多くの妊産婦と女性に届け、母子保健を向上させる
実施地域	ナンガハール州ジャララバード市
対象人口	3万3200人
実施期間	2013年1月～12月
現地協力団体	アフガン医療連合センター

母子保健クリニックでの保健医療サービスの提供

妊産婦と女性、子どもたち延べ約2万7000人に対し、産前産後ケア、施設分娩、避妊薬(具)の配付、予防接種などの保健医療サービスを提供しました。

産前健診を行うクリニックスタッフ ▶



母子保健に関する啓発活動の実施

助産師の資格を持つクリニックスタッフ(ヘルスエドゥケーター)が農村を巡回訪問し、延べ約1万7000人の女性に母子保健に関する啓発教育を行いました。また、クリニックの待ち時間を活用し、延べ約1万人に母子保健のメッセージを伝えました。ランドセル配付対象地域においても配付時に児童と母親を対象に保健衛生教育を行いました。

◀ クリニックの待ち時間に、読み書きができない女性でも理解できるよう、絵を中心に作成した教材を活用し、妊娠中の注意事項や産前産後健診・施設分娩をはじめ母子保健のメッセージを伝えました

想い出のランドセルギフト

～女の子が教育の機会を得ることで女性自身や家族の命が守れる～

日本で役割を終えたランドセルをアフガニスタンの子どもたちに贈る活動も2013年で10年を迎えました。アフガニスタンでは15歳以上の女性の8割は読み書きができません。さらに女の子は早ければ十代前半位から結婚させられることもあり、妊娠・出産が原因で亡くなる女性の割合は日本の67倍。それを救う第一歩は、女性自身が知識を身につけること。2013年は1万9068個のランドセルを、学用品やろうそくと一緒に、ナンガハール州の小学校26校の児童に配付しました。

2004年に初めて贈ったランドセルを受け取ったリマさん(19歳、写真中央)今は大学の医学部で学んでいます ▶



開発コミュニケーション

ミャンマーでは

事業名	マラリア対策テレビ連続ドラマ制作事業
目的	マラリア予防の強化のため、PSIの依頼によりミャンマー保健省と協力して制作。現地機関の強化をしながら実施
対象	ミャンマー全土の住民
実施期間	2013年3月～11月
現地協力団体	PSIミャンマー・カントリー事務所、 ミャンマー保健省国家マラリア対策プログラム(NMCP)、 ミャンマー保健省保健局健康教育課(CHEB)

マラリア罹患率が高いミャンマーで、娯楽としても楽しめる、マラリア対策のメッセージが織り込まれた恋愛ドラマを制作しました。シーズン1として今回の作品は1話約10分の全6話からなり、ゴム園を舞台に二重・三重の恋愛が繰り広げられます。ジョイセフが得意とするコミュニケーション技術を使い、テレビ連続ドラマとラジオ連続ドラマを同時に作成。2013年3月にはミャンマーのプロデューサーが来日し、企画会議を開いて、オリジナル・ストーリーを作りました。ミャンマーで行われた撮影では、ミャンマー人39人と日本人3人からなる初の政府・NGO・日本人の制作チームを組んで、現地スタッフへの技術移転を行いながら、1カ月にわたるオールロケで撮影しました。PSIミャンマーの編集者も来日し、日本の最新技術を使った編集技術を学びました。すでにミャンマー保健省の承認は得ており、近々国営と民放のテレビ局とラジオ局を通じて全国放送されます。



▲ ゴム園の経営者の家での撮影風景

リサイクルによる支援

実施国	ザンビア、ブルンジ、リベリア、コートジボワール、トーゴ、セネガル、アフガニスタン
現地協力団体	ザンビア家族計画協会 (IPPFザンビア) ブルンジ家族計画協会 (IPPFブルンジ) リベリア家族計画協会 (IPPFリベリア) コートジボワール家族計画協会 (IPPFコートジボワール) トーゴ家族計画協会 (IPPFトーゴ) セネガル家族計画協会 (IPPFセネガル) アフガン医療連合センター (UMCA)

寄贈品は、保健医療施設での妊産婦健診や村の集会所での巡回健診に参加した女性たち、また啓発教育活動に参加した子どもたちや地域住民に配付し、母子保健や保健衛生に関する意識と知識の向上に役立てられました。



協力

ユニクロリサイクル衣料: 156万4400着寄贈
そごう・西武他リサイクル子ども靴: 8万6400足 (ザンビア)
赤ちゃん本舗リサイクル肌着: 1万9058着 (ザンビア)
株式会社商船三井: ザンビア向け海上輸送とコンテナの無償協力 (子ども靴と赤ちゃん肌着)

再生自転車の海外譲与と保健ボランティアの育成事業

保健ボランティアの育成事業

実施国	ザンビア
協力	公益財団法人JKA、ザンビア家族計画協会 (IPPFザンビア)

再生自転車の海外譲与事業

実施国	カンボジア、アフガニスタン、ザンビア、リベリア、ガーナ
協力	公益財団法人JKA、再生自転車海外譲与自治体連絡会 (ムコーバ)、 日本郵船グループ、株式会社ロッテ

途上国の農村地域で活動する保健ボランティアの育成研修を行い、遠い距離の移動ができるよう再生自転車を寄贈しました。自転車を活用した各村々での保健に関する啓発活動内容は、村人にとり健康を守るための貴重な情報となります。



◀ エプロン教材を活用した保健ボランティアの育成研修

平成25年度の公益財団法人JKAの競輪の補助を受け、以下の事業を実施しました。

事業名: 平成25年度国際交流の推進活動補助事業 (2014年3月31日完了)

事業内容: 再生自転車の海外譲与と保健ボランティアの育成事業

補助金額: 1035万2000円



▲ 保健ボランティアへの自転車の配付 (ザンビア)

ADVOCACY アドボカシー(政策提言)

リプロダクティブ・ヘルスに関する国際会議に参加

1.

2013年 4月

IMF/世銀グループ春・秋総会

2013年、石井澄江ジョイセフ理事長が世界銀行の保健・栄養・人口(HNP)部門 市民社会コンサルテーション・グループ(CSCG)のメンバーに就任しました。春・秋の総会時に合わせHNP/CSCG会合が同時開催され、この会合に参加するとともに、並行して開催されたCSO(市民社会)フォーラムやサイドイベントなどに参加し、保健・ジェンダー関連の情報収集と意見交換を行うとともに、幅広いネットワークの構築に努めました。

2.

2013年 5月

ウィメン・デリバー

5月28日から30日にかけて、マレーシアのクアラルンプールにおいて第3回ウィメン・デリバー会議が開催されました。ロンドン、ワシントンに次ぎ、アジアで初めての開催でした。多くの政府、国連・国際機関、NGOが参加する中、マレーシアのナジブ首相が開会挨拶の中で、同国のジェンダーの課題にさらに積極的に取り組むという力強いコミットメントを行いました。若い女性の積極的な発言が際立っていました。

3.

2013年 9月

国連MDGs 特別総会

9月25日、2015年以降の開発課題を検討する中で、重要な節目となる国連MDGs 特別総会がニューヨークの国連本部で開催されました。日本の安倍晋三首相は「女性が輝く社会」への取り組みを掲げ、世界中から大きな歓迎の声が沸きました。また、日本は2015年以降の持続的開発目標のなかの保健の目標として「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)」を据えるべく、安倍首相自らが活発なアドボカシー活動を行いました。

4.

2014年 1月

アジア・太平洋セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ会議

第7回アジア・太平洋セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ会議(APCRSHR)がフィリピン、マニラで開催されました。2年に1度アジア各地において持ち回りで開催されているこの会議は、SRHRに関する最大の会議であり、アジアのみならず、他の地域からも多くの研究成果が発表されました。会議の最後に「マニラ・チャレンジ」が採択され、「すべての人にSRHRを」との呼びかけが行われました。

国際シンポジウムの開催： 第5回アフリカ開発会議(TICAD V)にて 公式サイドイベント開催



2013年6月1日から3日まで開かれた第5回アフリカ開発会議で、ジョイセフはサイドイベントの共催とブースの出展を行いました。「妊産婦の健康に対する投資の効果」をテーマに開催したサイドイベントでは、福田康夫元首相、リベリア、マラウイの両大統領、エチオピア外務大臣をはじめ、国連人口基金(UNFPA)事務局長や国際家族計画連盟(IPPF*)事務局長などが登壇。各スピーカーから妊産婦死



亡率の削減のための継続的な家族計画の重要性が改めて訴えられました。300人を超える参加者があり、会期中もっとも注目を集めたセッションになりました。

官民連携

2013年8月、阿部俊子外務大臣政務官(当時)のガーナ訪問に石井理事長が同行し、ガーナ北部州にて「HIVとリプロダクティブ・ヘルスのためのIPPF日本信託基金」を通じて実施中の事業内において、妊産婦の健康改善と女性のエンパワーメントに資するパイロット・ケースを立ち上げることになりました。この協力は、2013年5月

に署名を行った「日本国外務省とIPPFとの間の戦略的パートナーシップに関する覚書」に基づくもので、パナソニック(株)、サラヤ(株)、ジョイセフ、IPPFおよび同加盟協会であるガーナ家族計画協会(IPPFガーナ)との連携の下に行われます。

ワークショップの開催： 高齢化社会における国際家族計画連盟(IPPF)加盟協会の役割を考える

2013年12月9日から12日にかけて、ジョイセフは第2回「高齢化社会における国際家族計画連盟(IPPF)加盟協会の役割を考えるワークショップ」を、IPPFと日本家族計画協会との共催で開催。IPPF本部、IPPF東・東南アジア・大洋州地域事務局、そして東・東南アジアの6つの加盟協会(中国、香港、インドネシア、マレーシア、タイ、日本)から参加を得ました。

今回のワークショップでは、2013年3月に開催した第1回ワークショップの議論がさらに深められたほか、参加者が静岡県および藤枝市の行政や高齢者向け施設などを訪問して日本の事例を学習し、現場の実態を踏まえた具体的な行動計画や、IPPF全体の将来的な戦略づくりへの提言も策定されました。この訪問の様子が静岡テレビのニュースで放送されました。



* 国際家族計画連盟(IPPF)は、1952年の設立以来60年以上にわたり「すべての人びとの性と生殖に関する健康と権利を守り、実現する」という課題に取り組む世界的なNGO団体です。現在は世界中のNGOのネットワークを通じて、170カ国以上で草の根の活動を行っています。ジョイセフは長年、IPPF東京連絡事務所として事業協力を図っています。

SMAG
SAFE MOTHERHOOD ACTION GROUP

No Woman Should Die
While Giving Life.

Mothers
A'live
BE PART OF THE

Mothers
A'live
BE PART OF THE JOY

Mothers
A'live
BE PART OF THE

Mothers
A'live
BE PART OF THE

ジョイセフの考え方

人間中心の視点

わたしたちは、人口問題とは数の問題だけでなく、人間一人ひとりの問題であると考えます。

住民が主体

わたしたちは、住民が自らの健康に関するニーズに気づき、健康を向上させるための活動の主体となるよう支えていきます。

ジェンダーの平等

わたしたちは、ジェンダーにおける平等が、リプロダクティブ・ヘルス推進にとって欠かせないと考えます。

NGOとしての独自性

わたしたちは、世界のリプロダクティブ・ヘルス推進の使命をもったNGOとして、独自性を保って行動します。

NGOとしてのチャレンジ

わたしたちは、常に、変化する社会や住民一人ひとりのニーズに応えるために、考え、行動します。

パートナーシップ

わたしたちは、市民社会、そして政府、国連・国際機関、専門研究機関などと協力しながら、よりよい社会づくりを目指します。

地球規模的な視野

わたしたちは、国際人口開発会議の行動計画(ICPD・PoA)を推進します。国際的に合意されたミレニアム開発目標(MDGs)は、ICPD・PoAの実践なくしては達成できません。

被災地支援



▲ 私の夢について絵に表し、グループで共有

ジョイセフは、公益社団法人母子保健推進会議、自治医科大学公衆衛生学部門と協力し、全18市町村(福島県10市町村、宮城県6市町村、岩手県2市町村)に住む乳幼児を持つママを対象に、各2回ずつ36回のクラスを実施しました。また、地域でのリフレッシュ・ママクラスの定着を目指し、2013年7月には保健師を対象に「ファシリテーター養成講座」を2日間にわたり郡山で開催し、22人の福島県の保健師が参加。

本音で語り合う演習と共感を通して、自分の内面を見つめ、仲間と思いを共有し、理解し合うことで、自分自身を愛し、仲間と支え合いながら、もう一度未来に向かって歩み出す力を取り戻すことを目指しました。クラス終了後には参加者同士でメールアドレスを交換し、自主的にママ同士で集まる機会を作り、地域でのママ同士のつながりや市町村の保健師さんとのつながりが強化される機会ともなりました。

リフレッシュ・ママクラス

実施地域 | 被災3県(福島県、宮城県、岩手県)

実施期間 | 2012年～2014年

対象人口 | 約500人

現地協力団体 | 各市町村母子保健課/子ども家庭支援課等

活動目的 | 東日本大震災とその後の環境などによって無力感に陥った子育て期の母親の「生きる力」「育てる力」を取り戻し、地域の「子育て力」を向上する



▲ 「ファシリテーター養成講座」にて、地域でのクラスの定着を目指し、何ができるか思案

みやぎ「じょさんしサロン」強化事業

実施地域 | 宮城県

実施期間 | 2013年4月1日～2014年3月31日

対象人口 | 宮城県内の乳幼児を養育中の母親と妊産婦

現地協力団体 | 宮城県助産師会

活動目的 | 「じょさんしサロン」事業を強化し、被災母子の心と体のケアを継続的に実施する体制を整備する



▲ 「助産師フェスタ」での沐浴指導



▲ 「じょさんしサロン」でのベビーマッサージ講座

さまざまなストレスを抱えた宮城県内の妊産婦を対象に、「じょさんしサロン」を全24回開催しました。病院・産婦人科医院・児童センター・助産所を会場に、ベビーマッサージや手遊び・わらべ歌など、子育てを楽しくする講座や母

乳マッサージ・育児相談を行い、癒しと参加者同士の交流の場を提供。また、助産師の活動に対する認知理解向上のための広報イベントを開催し、約200人の母子、妊産婦およびその家族が参加しました。

ジョイセフ・カレッジTOHOKU

実施地域 | 宮城県仙台市

実施期間 | 2013年7月～11月

対象人口 | 30人

資金ソース | 寄附金

活動目的 | これからの東北を元気にしていくためにリーダーシップを発揮できる女性を育成する



01.グループワークも盛りだくさん 02.体を使ったワークショップの演習も 03.全員が発表を行い、希望と涙の溢れる修了式になりました

これからの東北の未来を担う女性リーダーをつくる、女性のための学びの場として、各界の魅力的な女性パイオニアを講師陣に迎えて、宮城県仙台市で7月6日～11月23日の間、30人を対象に全11回のカリキュラムで開催しました。最終的には、個人がこれからの東北を元気にしていくためのドリーム・アクション・プランを立て、発表しました。

学 長： 富 永 愛

講師陣(敬称略)：

大葉ナナコ(パースコーディネーター)	ユール洋子(米国NLP協会公認トレーナー)
村上弘子・高橋里奈(青学復活夢見隊)	堂珍敦子(モデル)
向田麻衣(Coffret Project代表)	青木愛(ヴィリーナジャパン(株)代表取締役)
遠藤幹子(一級建築士)	浅村里紗(ジョイセフ・人材養成グループ)
ユーゴ(touta.主宰)	



▲ 現地の女性と東北の女性による交流プログラムの様子

ツアーでは、IPPFインドネシアがジョイセフと連携して取り組んできた、トラウマケア、女性への経済的自立支援、被災した子どもたちへの奨学金制度などを中心に視察しました。また、現地の女性に集まっただき、東北から参加した3人とのワークショップも行いました。プログラムの中で人生の振り返りなどを通して、震災時や現在の気持ちをお互いに共有しました。グループワークでは、「津波が再来した時のために準備しておきたい10のこと」をテーマにアイデアを出し合い、それぞれの体験による意見を交換しました。

01.震災跡地を訪れ、津波被害の大きさに改めて触れました 02.ヌサ村では、クラフト作りを通して住民を孤立させない努力を続けるトラウマケアを視察

インドネシア・アチェ州バンダ・アチェ プレスツアー

実施地域 | インドネシア・アチェ州バンダ・アチェ

実施期間 | 2014年2月8日～14日

対象 | プレスから5人

東北被災地の女性支援活動 参加者3人

現地協力団体 | インドネシア家族計画協会(IPPFインドネシア)

資金ソース | 国際家族計画連盟(IPPF)

活動目的 | 東日本大震災から丸3年という年の2014年、2004年12月26日に同じく大地震による津波で甚大な被害にあったインドネシア・アチェ州の州都バンダ・アチェを訪れ、震災から10年目を迎えるアチェの復興の様子を視察するプレスツアーを行いました。参加プレスは読売新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、時事通信社、フリージャーナリストの5人。加えて、今回のツアーには、ジョイセフが東北で行ってきた女性支援活動(ジョイセフ・カレッジTOHOKU)に参加した女性2人とジョイセフフレンズ1人にも同行してもらい、今後の東北の復興へ向けた学びの場を提供しました。



人材養成事業

開発途上国の指導者を対象に日本国内でワークショップを行い、また、講師派遣等も実施しました



思春期保健ワークショップ (JICA委託事業)

Workshop on Improving Adolescent Sexual and Reproductive Health

対象国・地域 -----
中国、ドミニカ共和国、ガーナ、レソト、リベリア、メキシコ、スワジランドより13人 (NGO/政府思春期保健担当者)



高齢化社会における国際家族計画連盟 (IPPF) 加盟協会の役割を考えるワークショップ

対象国・地域 -----
中国、香港、マレーシア、インドネシア、タイ、日本のIPPF加盟協会事務局長と理事10人およびIPPF東・東南アジア・大洋州地域事務局長含む2人



妊産婦の健康改善 (MDG5) ワークショップ (JICA委託事業)

Workshop on Improvement of Maternal Health (Focus on MDG5)

対象国・地域 -----
アフガニスタン、ラオス、リベリア、マレーシア、ナミビア、ナイジェリア、フィリピン、タジキスタン、東ティモール、イエメンより16人 (NGO/政府の母子保健担当者)

2013年度は国内外の2274人を対象に講義・講演会、ワークショップを実施



- 国際医療福祉大学大学院
- 昭和女子大学
- 淑徳大学
- (公社) 青年海外協力協会
- 津田塾大学
- (一社) ガールスカウト群馬県連盟
- 東京女学館中学校
- 静岡県三島市役所
- 国立看護大学校
- (独行) 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所
- 埼玉県加須市
- (特非) ACE
- (公財) 東京都予防医学協会
- 順天堂大学
- 愛知教育大学附属岡崎中学校
- 信州豊南短期大学
- ホンダ開発株式会社
- つくば市PTA連絡協議会
- 城西大学
- 静岡県立大学
- お茶の水女子大学附属高等学校
- (一社) さいたま市ガールスカウト連絡協議会
- 富士市立岩松北小学校
- 富士市立吉原第三中学校
- 藤沢市立湘洋中学校
- (一社) 日本家族計画協会
- NGO-労働組合国際協働フォーラム
- 埼玉県新座市役所
- 日本国際保健医療学会学生部会
- 獨協大学

ジョイセフでは、世界の女性をとりまく現状やリプロダクティブ・ヘルスの概念、ジョイセフの取り組みなど、さまざまなテーマに沿った講師の派遣、講義依頼を承っています。

- ・世界を知る
- ・私たちが変わる
- ・世界を変える

開発途上国のお母さんと赤ちゃんは大変だ!

【母子保健】

心と身体を守るために

【行動変容のためのコミュニケーション】

想い出のランドセルギフトとアフガニスタンの少女たち

【女子教育】

メディアの協力

ジョイセフの活動はメディアによる情報発信によっても支えられています。2013年度は朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、日本経済新聞、「25ans」、「ビタミンef」、「LEE」、「エコ맘」、「ソトコト」、「クロワッサン」、「シティリビング」、NHK、日本テレビ、BS朝日放送など多くの紙媒体、オンライン媒体、テレビに取り上げられました。



クロワッサン 2013年10月25日号、2014年2月25号



ソトコト 2013年12月号



LEE 2013年10月号



ビタミンef 2013年8月号



ecomom 2014年 春号

プレスツアー 2014年2月8日～14日

東日本大震災から丸3年を迎えるにあたり、2004年12月26日に大地震による津波で甚大な被害にあったインドネシア・アチェ州の州都バンダ・アチェを訪れ、IPPFと現地NGOのインドネシア家族計画協会 (IPPFインドネシア)と協力して、プレスツアーを実施しました。参加したプレス5人に緊急支援やトラウマケア、女性の経済支援、震災遺児への奨学金制度といった支援活動の取り組みを取材してもらいました。この時の模様は読売新聞、時事通信、「週刊金曜日」などで大きく取り上げられました。



読売新聞 2014年3月12日



読売新聞 2014年3月13日



週刊金曜日
2014年3月7日 (No.982) 号



シティリビング
2013年9月27日



テレビでは・・・

宮城テレビ「news every」(13年5月16日放送)
日本テレビ「news every」(13年10月4日放送)
NHK「BS News」(13年10月31日放送)
BS 朝日放送「テイバン.tv」(14年3月16日放送)
で、ジョイセフの活動が紹介されました。

富永愛ジョイセフ・アンバサダーの活動

2013年度もジョイセフ・アンバサダーとして、テレビ、ラジオ、ファッション誌、フリーペーパー等メディアでの積極的な情報発信や、TICAD Vサイドイベントでの総合司会、被災地支援活動の視察を通して、開発途上国や東北の女性、妊産婦の現状を訴え、支援を呼びかけました。

9月に発行した『世界女の子白書』の企画・制作に全面的なサポートをし、東京都立飛鳥高等学校や、聖心女子大学で講義するなど、高校生・大学生の女の子たちへの「チャリティ」精神の喚起、ジョイセフの認知普及に貢献しました。

01



01. 5月: 写真家レスリー・キーの撮影で、イメージの他5人のモデルと『世界女の子白書』のためのピンキーリング撮影会を実施 02. 5月: 母の日に宮城県泉区にある「とも子助産院」を訪問し、宮城県助産師会に所属する8人の助産師から活動をヒアリング。自身のブログやツイッターなどでレポートを配信

02



GIRL meets GIRL プロジェクト

チャリティーピンキーリング

女子学生の間でますます人気上昇中!

3年間で総計 8万7000個(2013年度は2万1068個)突破!



電通ギャルラボ編・企画協力ジョイセフ
『世界女の子白書』を木楽舎より出版

世界の女の子の恋愛、結婚事情、夢、就職、出産といった真実とカワイイが詰まった『世界女の子白書』を出版。

世界を知ることは自分自身を知ること。今を生きるすべての女の子にとって、これから生きるためのヒントになることを願った一冊です。税込823円



03



04



05



06



03. 6月: TICAD Vサイドイベントにて総合司会を務める 04. 7月~11月: ジョイセフ・カレッジTOHOKUの学長を務める。11月修了証書授与
05.06. 9月: 都立飛鳥高校にて「タンザニアの女の子」をテーマに講義

2つの新ピンキーリングが登場



45周年記念リング
「Power」
(12月よりフィリピン支援に)



フィリピン災害支援リング
「Tomorrow」

3つのコラボレーション
オリジナルピンキーリングが登場

「サラヤ」「KISS」「レナズ」



サラヤ milkylove



サラヤ milkydream



レナズ gift



kiss boy



kiss girl

2013年度 イベントカレンダー

たくさんのご協力ありがとうございました

4月

- 10日/お産Bar@MO-House (主催:MO-House)
- 13日/ランドセル検品作業@横浜貿易倉庫 (主催:(株)クラレ)
- 20日/ジョイセフランドセル検品作業@横浜貿易倉庫
- 27日/メーデー@代々木公園 (主催:連合)
NGO-労働組合国際協働フォーラム・母子保健グループとして参加



6月

- 1日/ninfes@水天宮
- 1日/TICAD V 公式サイドイベント
「妊産婦の健康に対する投資の効果」@パシフィコ横浜
- 12日/BOYZ 4 WOMEN@表参道 文房具カフェ



8月

- 31日/Tokyo Girls Collection 2013
@さいたまスーパーアリーナ (主催:Tokyo Girls Collection)



25日・26日/リトルママフェスタ
with 堂珍敦子@池袋サンシャイン
(主催:(株)リトル・ママ)

5月

- 3日・4日/渋谷ヒカリエShinQsにて
チャリティーピンキーリング頒布(協力:(株)東急百貨店)
- 11日/Lena's主催
「母を想う女性を想う日」イベント
内田恭子さんとトークショー@東京アメリカンクラブ
- 15日/そごう・西武 think college@西武渋谷店
- 24日/ジョイセフアワー@ジョイセフ
(ジョイセフスタッフと思春期保健ワークショップ参加者による講座)



7月

- 3日/ジョイセフフレンズ懇親会@ジョイセフ
- 10日/Student meets Student 第1回@ジョイセフ
- 11日/自治体とNGO/NPOの連携推進セミナー
@市民国際プラザ(主催:(財)自治体国際化協会)

9月

- 4日/「マルチセクターで取り組む ポストMDGsの課題」シンポジウム
@連合会館(主催:NGO-労働組合国際協働フォーラム)
- 13日/Student meets Student 第2回@ジョイセフ



- 18日・19日/UAゼンセン定期大会
展示/販売@仙台サンプラザホール(主催:UAゼンセン)
- 30日/「世界女の子白書」新刊記念
富永愛アンバサダー出張講義@都立飛鳥高校

10月



- 5日・6日/グローバルフェスタJAPAN 2013@日比谷公園
(主催:グローバルフェスタJAPAN2013実行委員会)



- 10日・11日/国際ガールズデー記念
ジョイセフガールズカレッジ@渋谷ヒカリエShinQs
- 25日/連合中央女性集会@ビッグサイト(主催:連合)

11月

- 9日/UBUGOE 九州朝日放送60周年記念イベント
@福岡市役所ふれあい広場(主催:九州朝日放送)
- 9日/ジョイセフランドセル検品作業@横浜貿易倉庫
- 20日/世界女の子白書 de ガールズトーク
@ジョイセフスポット
Cream(静岡県三島市)



- 21日/荏原法人会チャリティー寄席
@荏原文化センター
(主催:荏原法人会)



- 28日/GIRL meets GIRL サミット@山陽堂書店

12月



- 5日/チャリティーガラパーティ with Lena's@東京アメリカンクラブ

- 7日/MODE for Charity 2013
@うめきたSHIPホール



- 8日/IWCJ ホリデーパーティ
「世界女の子白書ができるまで」ワークショップ
@東京プリンスホテル(主催:IWCJ)

1月 2014

- 27日・28日/
電機連合中央委員会
@パシフィコ横浜
(主催:電機連合)



- 22日/お産Bar@MO-House(主催:MO-House)
- 27日/UBUGOEスクール@ワイルドツリー(長野県伊那市)
(主催:ワイルドツリー)

2月 2014

- 21日/女のこのための冬の学園祭@八芳園
(主催:朝日新聞)



3月 2014

- 4日/国際女性デー記念
支援報告会@電通ホール
- 6日/「3.8国際女性デー中央集会」@よみうりホール、喫茶店(主催:連合)
- 21日/つくば市「ランドセル贈呈式」@ノバホール
(主催:つくば市PTA連絡協議会)



■ ご寄附をいただいた企業・団体・著名人紹介

2013年度、開発途上国支援・被災地支援のご寄附をいただいた一部の企業・団体・著名人の方をご紹介します。

主な支援内容

- + 寄附金による支援
 - + 物販寄贈と海外輸送費経費による支援
 - + 商品売上による寄附
 - + 広告支援と寄附
- + 社員寄附と会社のマッチング寄附
 - + コラボ商品による寄附
 - + イベントで集まった寄附 等

写真は支援の一例

- 株式会社赤ちゃん本舗
- アスクル株式会社
- 株式会社伊藤園
- 茨城県国際交流協会
- INSOUホールディングス株式会社
- ウィズフィール京都山科管理組合
- ヴィリーナ ジャパン株式会社
- エキサイト株式会社
- 一般社団法人荏原法人会
- 株式会社エーミライトデザイン
- 大島花子
- 株式会社カインズ
- 加藤産業株式会社 KATO グリーンウッド基金
- 医療法人社団SJS 金子レディースクリニック
- 学習院女子大学 大学祭実行委員会
- キューピー株式会社
- 株式会社銀座千足屋
- 株式会社クオカブランニング
- 株式会社クラレ
- グロッセジャパン株式会社
- 株式会社グローバルプレス
- コカ・コーラ各社株式会社
- 株式会社小堀
- ゴールドマン・サックス証券株式会社
- 坂井モーター株式会社
- サラヤ株式会社
- 株式会社サンエー・インターナショナル
- 有限会社サンライト
- 三和グループ社会貢献倶楽部
- 株式会社ザ・キッス
- 株式会社集英社
- 全国共済農業協同組合連合会
- 全国電力関連産業労働組合総連合
- 全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会
- 株式会社そごう・西武



▲ 子どもたちが描いた絵をラッピングしたホワイトリボン自販機を通じて、設置者および、伊藤園、ヤクルト、サントリー、コカコーラの協力により、売上の一部を寄附



◀ 一本あたり1.5円をホワイトリボン運動へ寄附 (INSOU)



▲ チャリティーメニューの一例。売上の10%を東北女性支援へ (千足屋3社本店)



▲ ジョイセフ45周年を記念して4と5をモチーフとしたIDホルダーやグローブホルダーなどのアイテムの売上の一部を寄附 (ヴィリーナ)



▲ 社員向け店舗でもチャリティアイテム販売協力 (トウ・アドキュービー)



▲ アフガニスタンに黒板とカーペットを寄附 (クラレ)



◀ 店頭で募金箱を設置 (お菓子作りの専門店 クオカ)



◀ そごう・西武本店、渋谷店でオリジナルホワイトリボンバッジを作成し、売上を寄附 (そごう・西武)

- 太陽生命グッドウィル・サークル友の会
- 大衛株式会社
- 株式会社デファクトスタンダード
- 株式会社デーメテル千疋屋
- tokyo baby café
- 株式会社東京海上日動コミュニケーションズ
- 長野県須坂市立相森中学校
- 株式会社ナチュラルサイエンス
- 株式会社ナチュラルプランツ
- ネットオフ株式会社
- 株式会社ハースト婦人画報社
- パナソニックグループ労働組合連合会
- 株式会社ファーストリテイリング
- 公益財団法人ベルマーク教育助成財団
- 北海道武蔵女子短期大学ボランティア委員会
- 三井住友銀行ボランティア基金
- 三菱樹脂株式会社
- 株式会社三菱東京UFJ銀行
- 株式会社三菱東京UFJ銀行社会貢献基金
- 明治安田生命保険相互会社
- ヤクルト販売株式会社各社
- 山形県立山形東高等学校
- 一般社団法人ランガール
- 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
- リシュモンジャパン株式会社
- ロクシタン基金
- 株式会社ロッテ



▲ ホワイトリボン寄附対象商品3種類の売上の一部を寄附（大衛）



▲ 生徒会の皆さんで協力してランドセルを毎年贈ってくれています（須坂市立相森中学校）



▲ MODE for Charity2013の特別商品として売上の15%が寄附へ（ナチュラルサイエンス）



▲ 高級時計メゾンから東北女性の継続的支援のための限定モデルが誕生（リシュモンジャパン）



▲ 25ans6月号の売り上げの一部を東北支援へ。2014年1月号では富永アンバサダーの記事も掲載（25ans）



▲ ヴァーベナのハンドクリームで東北のママたちにハンドマッサージレッスン（ロクシタン）



▲ ロッテガーナチョコの裏面広告による広報協力と寄附（ロッテ）



▲ ランガールナイト大会当日に販売されたチャリティ商品の売り上げの一部を寄附（ランガール）

ジョイセフスポット一覧

ジョイセフスポットには、ジョイセフの広報配布物を置いてもらっております。各店舗ではジョイセフフレンズ特典を受けられます。

店舗名	店舗紹介	都道府県
えくぼや	和洋菓子店	宮城県
ヴィリーナ 広尾店	衣料品販売	東京都
天使のたまご 銀座店	サロン・治療院	東京都
天使のたまご 自由が丘店	サロン・治療院	東京都
Mo-House 青山店	衣料品販売	東京都
フランスのごはん Cream	レストラン	静岡県
食堂バル Oryza	レストラン	大阪府
sormark 中之島 studio	フォトスタジオ	大阪府
Mellicore	ママ応援スペース	福岡県

天使のたまご 銀座店



2013年度 決算書と監査報告書

■ 貸借対照表 ■

平成26年3月31日現在

公益財団法人 ジョイセフ

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	92,918,928	150,732,000	△ 57,813,072
前払金	155,520	0	155,520
未収金	53,501,066	42,830,446	10,670,620
仮払金	15,451,516	9,809,264	5,642,252
立替金	129,116	0	129,116
流動資産合計	162,156,146	203,371,710	△ 41,215,564
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産	114,232,500	164,232,500	△ 50,000,000
(2)特定資産			
退職給付引当資産	31,838,478	27,865,097	3,973,381
特定資産合計	31,838,478	27,865,097	3,973,381
(3)その他固定資産			
建物付属設備	1,782,062	2,052,508	△ 270,446
什器備品	574,973	1,635,726	△ 1,060,753
ソフトウェア	656,910	1,060,257	△ 403,347
電話加入権	648,000	648,000	0
敷金	6,080,000	6,080,000	0
その他固定資産合計	9,741,945	11,476,491	△ 1,734,546
固定資産合計	155,812,923	203,574,088	△ 47,761,165
資産合計	317,969,069	406,945,798	△ 88,976,729
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	1,262,436	2,693,011	△ 1,430,575
未払金	24,437,092	11,952,626	12,484,466
前受金	63,839,626	97,797,701	△ 33,958,075
仮受金	0	18,000	△ 18,000
賞与引当金	13,803,000	10,368,000	3,435,000
短期借入金	0	50,000,000	△ 50,000,000
流動負債合計	103,342,154	172,829,338	△ 69,487,184
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	103,342,154	172,829,338	△ 69,487,184
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	25,807,483	35,504,646	△ 9,697,163
指定正味財産合計	25,807,483	35,504,646	△ 9,697,163
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(114,232,500)	(164,232,500)	(△50,000,000)
正味財産合計	214,626,915	234,116,460	△ 19,489,545
負債及び正味財産合計	317,969,069	406,945,798	△ 88,976,729

■ 正味財産増減計算書 ■

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

公益財団法人 ジョイセフ

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	94,993	134,460	△ 39,467
事業収益	434,329,623	413,236,144	21,093,479
外務省委託事業収益	81,244,995	89,315,795	△ 8,070,800
JICA委託事業収益	143,642,653	148,326,213	△ 4,683,560
IPPF委託事業収益	95,932,366	75,236,538	20,695,828
UNFPA委託事業収益	14,110,318	14,433,952	△ 323,634
関係機関委託事業収益	51,968,313	37,331,260	14,637,053
協力支援収益	8,801,031	11,881,570	△ 3,080,539
物品頒布事業収益	8,898,410	11,764,930	△ 2,866,520
事業協賛金収益	22,690,997	12,284,041	10,406,956
調査研究収益	7,040,540	12,661,845	△ 5,621,305
受取寄附金	190,076,845	169,339,138	20,737,707
一般寄附金	168,666,105	144,307,775	24,358,330
指定正味財産受取寄附金振替額	21,410,740	25,031,363	△ 3,620,623
雑収益	3,613,589	5,773,264	△ 2,159,675
経常収益計	628,115,050	588,483,006	39,632,044
(2) 経常費用			
事業費	589,629,603	539,138,559	50,491,044
人件費	147,328,139	170,949,388	△ 23,621,249
運営費	33,725,230	36,609,293	△ 2,884,063
他勘定振替高	△ 84,982,154	△ 71,178,417	△ 13,803,737
外務省委託事業費	71,840,360	83,770,105	△ 11,929,745
JICA委託事業費	106,310,251	57,788,261	48,521,990
IPPF委託事業費	95,932,366	75,236,538	20,695,828
UNFPA委託事業費	14,110,318	14,433,952	△ 323,634
関係機関委託事業費	43,151,035	45,806,052	△ 2,655,017
協力支援事業費	129,164,953	93,955,794	35,209,159
物品頒布事業費	4,669,105	8,074,930	△ 3,405,825
募金活動費	1,213,640	1,215,443	△ 1,803
調査研究費	2,506,298	2,420,065	86,233
広報活動費	5,558,749	8,803,066	△ 3,244,317
事業推進費	19,101,313	11,254,089	7,847,224
管理費	47,465,985	47,019,769	446,216
人件費	35,246,305	33,378,302	1,868,003
事務局費	12,219,680	13,641,467	△ 1,421,787
経常費用計	637,095,588	586,158,328	50,937,260
当期経常増減額	△ 8,980,538	2,324,678	△ 11,305,216
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却額	0	30,328	△ 30,328
雑損失	811,844	4,341,954	△ 3,530,110
経常外費用計	811,844	4,372,282	△ 3,560,438
当期経常外増減額	△ 811,844	△ 4,372,282	3,560,438
当期一般正味財産増減額	△ 9,792,382	△ 2,047,604	△ 7,744,778
一般正味財産期首残高	198,611,814	200,659,418	△ 2,047,604
一般正味財産期末残高	188,819,432	198,611,814	△ 9,792,382
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	11,713,577	28,181,126	△ 16,467,549
一般正味財産への振替額	△ 21,410,740	△ 25,031,363	3,620,623
当期指定正味財産増減額	△ 9,697,163	3,149,763	△ 12,846,926
指定正味財産期首残高	35,504,646	32,354,883	3,149,763
指定正味財産期末残高	25,807,483	35,504,646	△ 9,697,163
III 正味財産期末残高	214,626,915	234,116,460	△ 19,489,545

監事監査報告と独立監査人の監査報告書

当財団監事と公認会計士から
左掲の監査報告を受けています。

平成26年5月19日

監事監査報告書

公益財団法人ジョイセフ
理事長 山崎隆江 様

公益財団法人ジョイセフ
監事 樋口典雄
監事 幸田昭二

私たちが監事は定款第34条の規定に基づき、平成26年5月2日（金）、5月14日（水）、5月15日（木）に公益財団法人ジョイセフにおいて平成25年度（平成25年4月1日から平成26年2月31日まで）の理事の職務の執行及び事業報告書、計算書並びにその附属書類として重要な決算書類等を監査いたしました。その監査の方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たちが監事は、理事及び職員等との意思疎通を図り、監査の責務に即する特種状況及び理事會・評議員会に出席し、理事及び職員等からその職務執行の報告を受けました。また必要に応じて説明を求め、重要な決算書類等を閲覧し、理事の業務執行の妥当性及び財産の状況を調査しました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告書について検討いたしました。更に会計帳簿又はこれに関する計算書類（貸借対照表及び定款財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

1) 事業報告書等の監査結果

(1) 事業報告書は、法令及び定款に依り、当法人の運営状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

2) 計算書並びにその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書並びにその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

平成26年4月22日

公益財団法人ジョイセフ
理事会・評議員会・監事 御中

鈴木康雄 公認会計士

鈴木康雄 公認会計士事務所
公認会計士 鈴木康雄

<財務諸表の監査>

私は、公益財団法人ジョイセフの平成25年4月1日から平成26年2月31日まで（平成25年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン1-9（注）の定めによる「当財団当年度計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、定款財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。

監査の方法及び内容

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査手続を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の全額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表の監査目的は、内部統制の有効性について意見を表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を策定するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

以上

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（定款財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認め、

<財産目録に対する意見>

私は、公益財団法人ジョイセフの平成26年3月31日現在の平成25年度の財産目録（貸借対照表科目）、「負債」及び「使用目的等」の欄に於て、以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認め、

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認め、

利害関係

公益財団法人ジョイセフと私の間には、公益認定手続の規定により監査手続が実施されていない。

以上

WHY 世界の動きとジョイセフ

公益財団法人ジョイセフは、人口および家族計画・母子保健を含むリプロダクティブ・ヘルス/ライツ分野の国際協力を実施する日本生まれの国際協力NGOです。1960年代以降、開発途上国では人口の急速な増加に対する取り組みが急務となりました。しかし、多くの開発援助機関が途上国政府と連携し導入した手法は、残念ながら、人権への配慮を欠いた、住民の意思に反する、人口抑制プログラムでした。1968年に設立されたジョイセフはそれに対して疑問をもち、1974年以来、常に社会的に弱い立場にある女性や地域住民を重視しつつ、戦後の日本の家族計画、母子保健、地域保健の経験をもとに地域に受け入れられるアプローチを世界に提唱し、一人ひとりの視点を尊重した草の根の運動を実践してきました。

その後の国際会議などで、同じ目標に向けて国際社会の合意が形成されていきました。ジョイセフのビジョン(目指すこと)や使命は、国際社会がのちに合意した目標ともつながりました。ジョイセフは世界 179 カ国が採択した 1994 年の国際人口開発会議 (ICPD: International Conference on Population and Development) 行動計画 (PoA: Plan of Action) および世界 189 カ国が公約した 2000 年のミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals) の達成に向けて活動しています。



また、2015年のMDGsの達成期限以降に向けて、ジョイセフはグローバルなネットワークや国際フォーラムに参加し、新たな戦略を協議しています。こうした場を通して、ジョイセフはリプロダクティブ・ヘルス/ライツを含むユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (Universal Health Coverage: すべての人々が保健医療サービスを平等に受けられる仕組み) の重要性や新しい課題である生活習慣病を注視しつつ、現場のニーズや人々の声を国際社会や政策決定者につなぐ努力をしています。

国際人口開発会議 (ICPD) 行動計画 (PoA) (1994年)

すべての人々が安心して性生活を営み、健康被害に直面することがないように、一人ひとりの視点から性と生殖に関する「健康」を考え、自ら決定し、行動を起こすことができるように働きかけ、また、家族やコミュニティによって支えられる社会を目指す。

ミレニアム開発目標 (MDGs) (2000年)

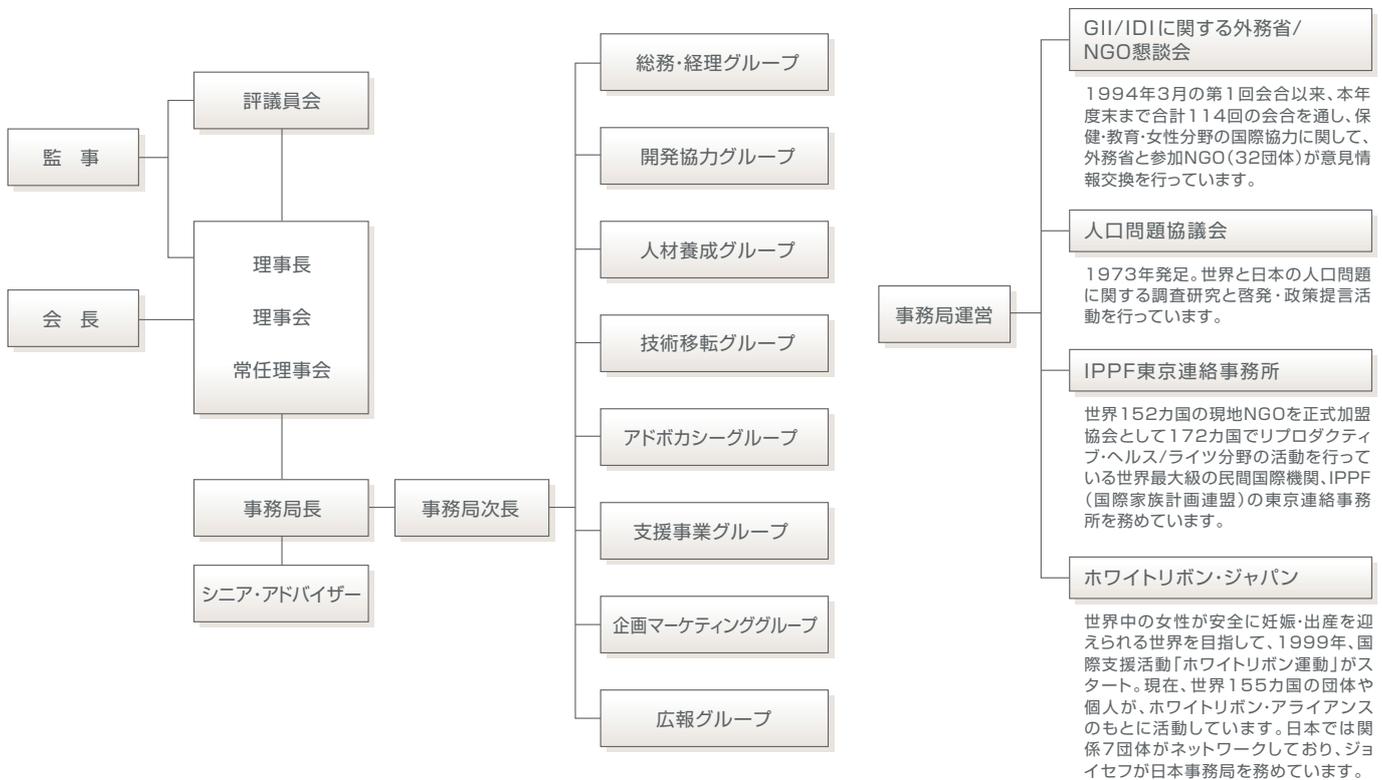
世界各国が取り組むミレニアム開発目標 (MDGs) の達成を目指す一特に関連する目標5「妊産婦の健康の改善」、および目標4「乳幼児の死亡の削減」、目標6「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」の改善を図る。

国内外の機関との連携

ジョイセフは、国連人口基金 (UNFPA)、国際家族計画連盟 (IPPF) を中心とする国連・国際機関や日本政府、また、国内の支援者との連携・協力のもとで、活動を展開しています。



組織図



支援のお願い

開発途上国の妊産婦と女性を守る活動および東日本大震災被災地支援にご賛同して下さる方は、ご協力をよろしく申し上げます。
また寄贈品はプロジェクトの活動と連携して活用されます。

- +** **寄附** 開発途上国の女性を継続的に支援する月々定額募金「ジョイセフフレンズ」のほか、国内の支援者や企業・団体からのご寄附を受け付けています。
- +** **寄贈品による支援** 開発途上国のニーズに応じて、ランドセル、学用品などの寄贈をお受けしています。寄贈品の輸送にあたって、海外輸送費のご協力もお願いしております。
- +** **収集ボランティア** 使用済み切手や外国コイン、書き損じハガキなどを収集しています。集まった寄贈品は、日本および海外のコレクターや取扱業者を通じて換金されます。
- +** **チャリティ商品の購入** タンザニア・キリマンジャロのフェアトレードコーヒーをはじめ、ホワイトリボングッズなど様々なチャリティアイテムのご購入を通じた支援をお願いいたします。
- +** **その他の支援** 開発途上国でのプロジェクト活動に対する資金協力や、チャリティイベントの開催を通じたご寄附、またホワイトリボン自販機の設置のご協力をお願いしております。お気軽にご相談ください。(連絡先：03-3268-5877 ジョイセフ支援事業グループ)



郵便振替、銀行振込のほか、ジョイセフのホームページでもご寄附をお受けしています。

郵便振替

開発途上国支援 | 口座番号：00190-2-78370

加入者名：

この口座は振込手数料免除です。窓口から青い用紙でお振込ください。

被災地支援 | 口座番号：00130-7-28122

公益財団法人ジョイセフ

手数料免除はありません。

銀行振込

三井住友銀行 新宿通支店 (普) 0922014 / 名義人：公益財団法人ジョイセフ

ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキュー店) (当) 0078370 / 受取人：コウエキザイダンホウジンジョイセフ

* ジョイセフへの寄附金は、税制上の優遇措置(個人：所得控除あるいは税額控除、法人：法人税法上損金算入ができる)が受けられます。詳しくはお問い合わせください。



公益財団法人ジョイセフ 年次報告書 2013

2014年 6月 12日 発行

発行人：鈴木良一

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館

TEL 03-3268-5875 FAX 03-3235-7090

<http://www.joicfp.or.jp/>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固くお断りします。